

2021年8月31日 全7頁

Indicators Update

2021年7月鉱工業生産

東南アジアの感染拡大がサプライチェーンを直撃し自動車工業で減産

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬

[要約]

- 2021年7月の生産指数は前月比▲1.5%と2カ月ぶりに低下した。市場予想(同▲2.4%)を上回ったが、半導体不足や東南アジアでの新型コロナウイルスの感染拡大を受けたロックダウン(都市封鎖)がサプライチェーンを直撃し、主力の自動車工業が減産となった。他方、半導体への根強い需要が同製造装置の増産につながった。
- 先行きの生産指数は緩やかに上昇するとみている。新型コロナウイルスワクチンの世界的な普及による経済活動の正常化の進展が幅広い業種の増産を後押しするだろう。世界的な半導体不足への対応のため、集積回路などの半導体や同製造装置の増産も見込まれる。自動車生産の挽回生産も見込まれるが、半導体不足や主要な部品調達先である東南アジア諸国での感染拡大の影響により、緩やかな回復にとどまるだろう。製造工業生産予測調査によると、8月は前月比+3.4%(計画のバイアスを補正した試算値(最頻値)は同+0.1%)、9月は同+1.0%と見込まれている。
- 9月7日公表予定の7月分の景気動向指数は、先行CIが前月差▲1.1ptの103.0、一致CIが同▲0.1ptの94.4と予想する。この予測値に基づくと、一致CIによる基調判断は「改善」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況(季節調整済み前月比、%)

	2020年		2021年							
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
鉱工業生産	▲0.2	+3.1	▲1.3	+1.7	+2.9	▲6.5	+6.5	▲1.5		
コンセンサス								▲2.4		
DIR予想								▲2.9		
生産予測調査									+3.4	+1.0
補正值(最頻値)									+0.1	
出荷	▲0.6	+2.9	▲1.3	+0.4	+3.1	▲5.5	+4.8	▲0.6		
在庫	+0.6	▲0.9	▲0.7	+0.4	▲0.1	▲1.1	+2.1	▲0.6		
在庫率	+0.1	▲4.9	+1.0	+0.2	▲2.4	+1.3	▲0.3	+1.2		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】半導体不足と部品の調達難を受け、自動車工業が生産指数を押し下げ

2021年7月の生産指数は前月比▲1.5%と2カ月ぶりに低下した。市場予想（同▲2.4%、Bloomberg調査）を上回ったが、主力の自動車工業が半導体不足や部品の調達難などの供給制約を受けて減産となった。他方、半導体への需要が同製造装置の増産につながった。経済産業省は基調判断を前月の「生産は持ち直している」に据え置いた。

生産指数を業種別に見ると、15業種中9業種が前月から低下、6業種が上昇となった。とりわけ自動車工業（前月比▲3.1%）が普通乗用車の減産により全体を押し下げた。6月の製造工業生産予測調査では、7月に自動車工業を含む輸送機械工業の増産が見込まれていたが、計画に反して減少した格好だ。半導体不足の影響に加え、部品工場が集中するベトナムの工業地帯などで新型コロナウイルスの感染が拡大し、7月上旬からロックダウン（都市封鎖）が実施されたことがサプライチェーンを直撃したとみられる。また電気・情報通信機械工業（同▲3.4%）では、リチウムイオン電池のほか、半導体不足の影響に伴いセパレート形エアコンなどが減少した。他方、生産用機械工業（同+1.6%）では根強い半導体需要を受けて同製造装置が増加した。

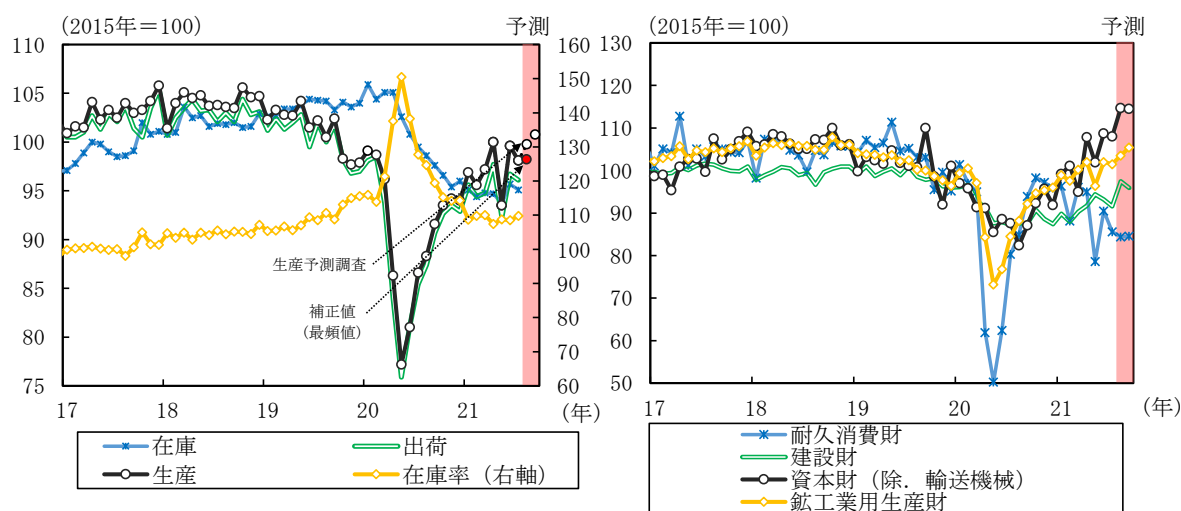
財別では、耐久消費財（前月比▲5.4%）、生産財（同▲0.5%）、資本財（除. 輸送機械）（同▲0.6%）、建設財（同▲1.7%）などいずれも低下した。

【出荷・在庫】出荷指数・在庫指数ともに小幅に低下

7月の出荷指数は前月比▲0.6%と2カ月ぶりに低下した。業種別では、電気・情報通信機械工業、石油・石炭製品工業、輸送機械工業（除. 自動車工業）を中心に15業種中11業種が低下した。財別では、生産財や建設財、資本財（除. 輸送機械）が低下し、耐久消費財は上昇した。

在庫指数は前月比▲0.6%と2カ月ぶりに低下した。主に自動車工業における在庫の減少が全体を押し下げており、同業種において出荷よりも生産の減少幅の方が大きかったことが背景にあるとみられる。他方、在庫率指数は同+1.2%と2カ月ぶりに上昇した。

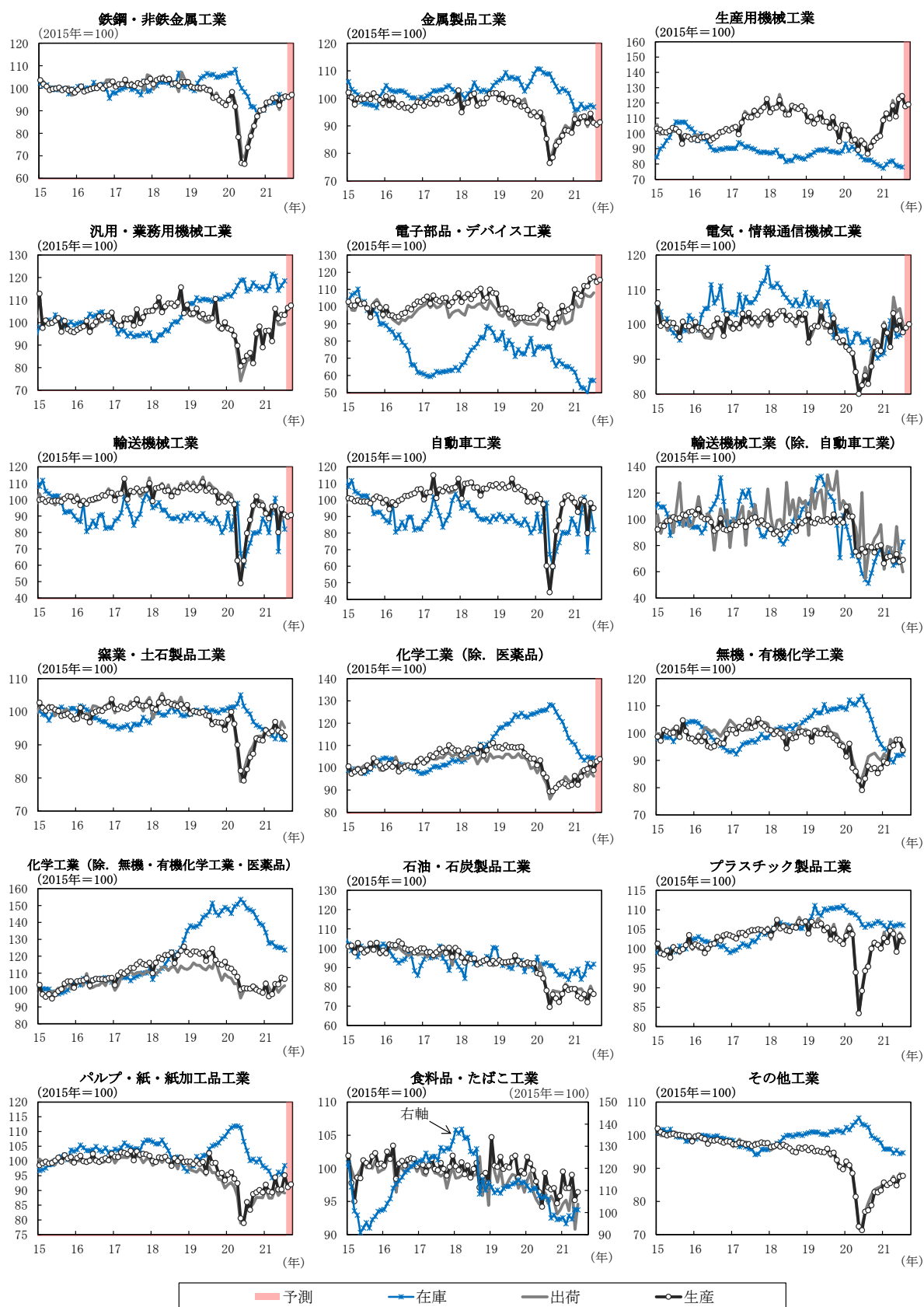
図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



（注）生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值（最頻値）。そのほかシャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。

（出所）内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業 (除. 医薬品) の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は短期的には緩やかな上昇にとどまるも、年度後半に持ち直し

先行きの生産指数は緩やかな上昇基調を維持するとみている。感染力の強い新型コロナウイルスの変異株（デルタ株）が世界的に流行する一方、ワクチンの普及による世界経済の正常化の進展に伴って輸出が増加し、幅広い業種で増産を後押しするだろう。世界的な半導体不足への対応として、集積回路などの半導体や同製造装置の増産も予想される。自動車の挽回生産も見込まれるが、半導体不足や部品調達先である東南アジア諸国での感染拡大の影響により、挽回生産の時期は後ずれするだろう。これにより、生産指数の上昇基調は短期的には緩やかなものにとどまる公算が大きい。

製造工業生産予測調査によると、8月は前月比+3.4%（計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同+0.1%）と増産が見込まれている。業種別では生産用機械工業（同+10.2%）や化学工業（同+4.3%）など11業種中8業種が増産の計画である。他方、輸送機械工業（同▲7.3%）や電気・情報通信機械工業（同▲1.4%）などは減産の計画となった。

9月の見通しは前月比+1.0%と2カ月連続で増加する見込みだ。化学工業（同+4.5%）が増産を続けるほか、輸送機械工業（同+3.1%）増産に転じる見通しとなっている。

ただし報道によると、9月はトヨタ自動車は国内で約14万台分の大幅な減産を行う予定だ¹。製造工業生産予測調査の調査日は8月上旬で、トヨタ自動車の減産の発表は8月19日であったため、減産計画が同調査に十分に反映されていない可能性がある。この減産の背景には、世界的な半導体不足に加えて東南アジアでの感染拡大による部品調達の遅延があるとみられる。とりわけ主要な部品調達先であるベトナムでは、工業地帯が広がるホーチミンなどで8月後半から外出規制が強化された²。Googleが公表するスマートフォンなどの位置情報データによれば、足元のホーチミン市内の職場への人出は感染拡大前に比べて9割程度減少しており、経済活動が非常に強く抑制されている。ロックダウンは9月半ばまで継続される予定であるため、部品調達への影響は今後も続くとみられる。とはいえ、トヨタ自動車は年度内の生産台数を当初の計画から据え置いている。短期的には自動車の減産が見込まれる一方、年度後半にかけては挽回生産によって生産指数全体が押し上げられるだろう。

¹ 日本経済新聞「トヨタ、世界生産9月4割減 東南ア感染拡大で部品停滞」（2021年8月19日）

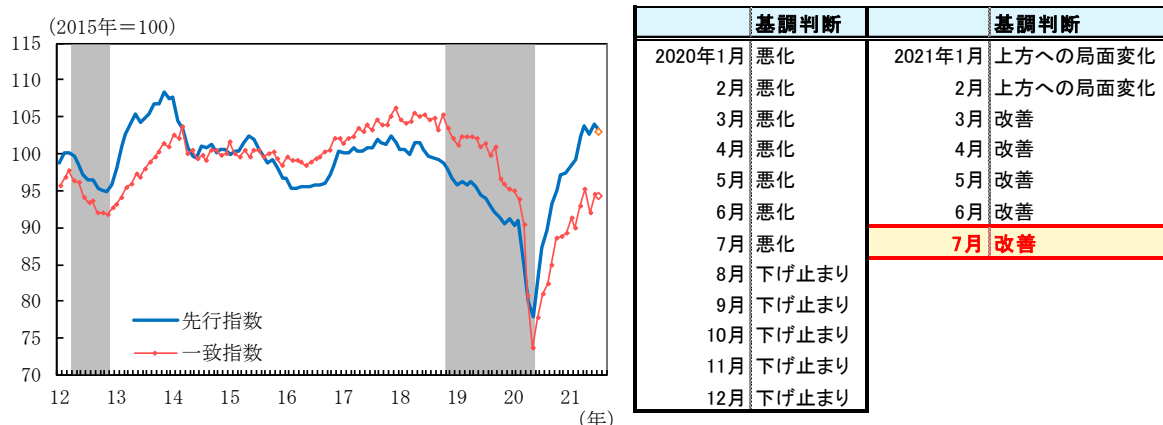
² JETRO「ホーチミン市、新型コロナ対策の社会隔離措置を強化、外出制限を厳格化」（2021年8月25日）

【7月景気動向指数】生産指数などの上昇により基調判断は「改善」に据え置きか

鉱工業指数の結果を受け、9月7日公表予定の7月分の景気動向指数は先行CIが前月差▲1.1ptの103.0、一致CIが同▲0.1ptの94.4と予想する（図表4）。先行指数では構成指標のうち、新規求人数（除学卒）や中小企業売上げ見通しDIなどが悪化した。他方、一致CIでは構成指標のうち、生産指数（鉱工業）や輸出数量指数などが悪化した。この予測値に基づくと、一致CIによる基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

当面の景気は均してみれば緩やかに改善するだろう。海外経済の回復を受けて輸出や生産の緩やかな増加が継続するとみている。ただし国内では新型コロナウイルス感染症の急拡大が続いており、感染拡大防止措置の対象地域が拡大された。政府は8月27日に北海道、宮城、岐阜、愛知、三重、滋賀、岡山、広島に緊急事態宣言を発出し、高知、佐賀、長崎、宮崎にまん延防止等重点措置を適用した。これにより、政府による感染拡大防止措置が取られている都道府県は33となった。飲食店に対する営業制限などの長期化が全国的に広がり、企業収益や雇用への悪影響が大きくなることで、景気回復のペースが抑制されるとみられる。

図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移

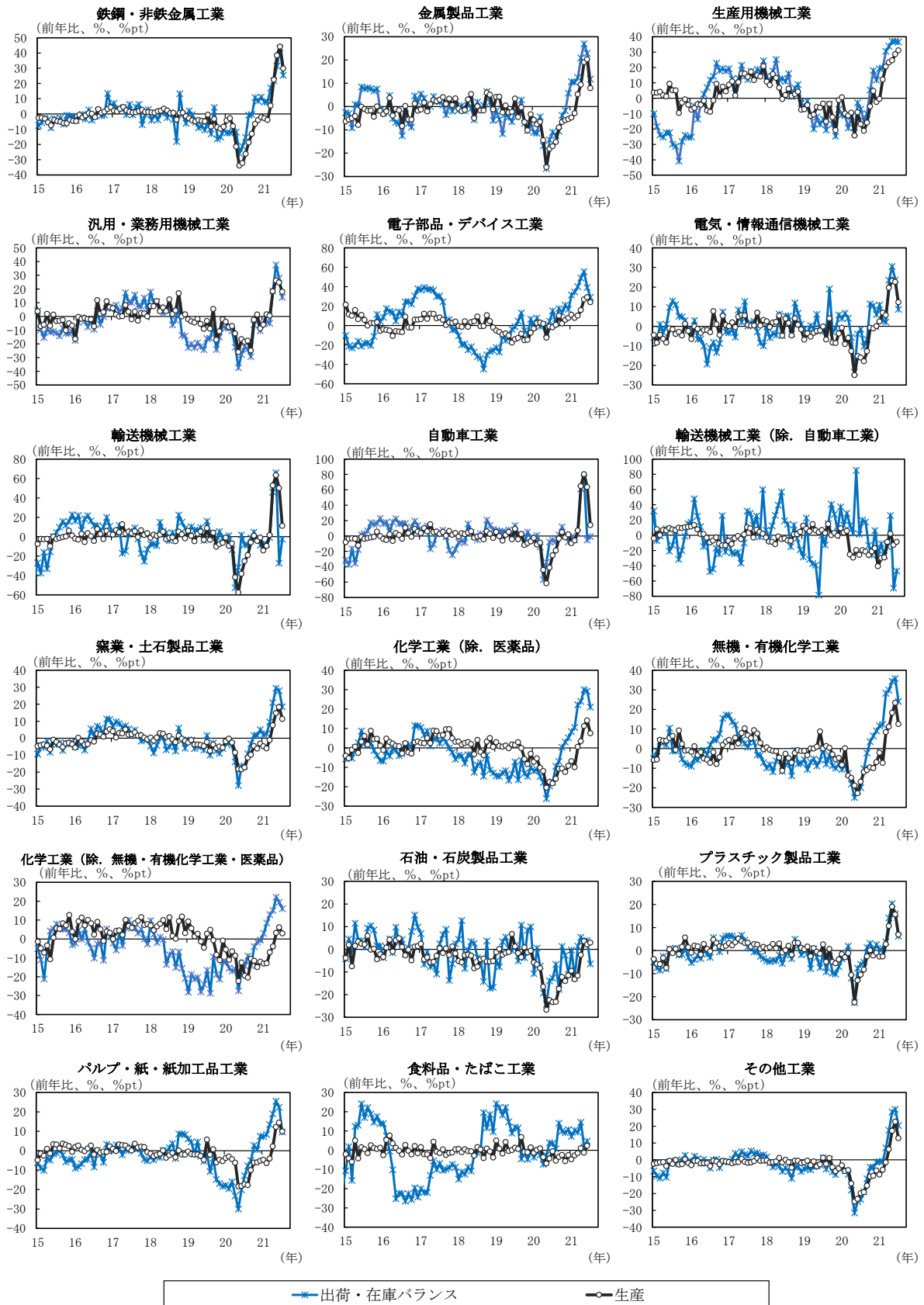


（注1）左図の直近は大和総研による予測値。右図の2021年7月の基調判断は大和総研予想。

（注2）シャドーは景気後退期（直近は暫定）。直近の景気の谷は大和総研による判断に基づく。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

業種別 出荷・在庫バランスと生産



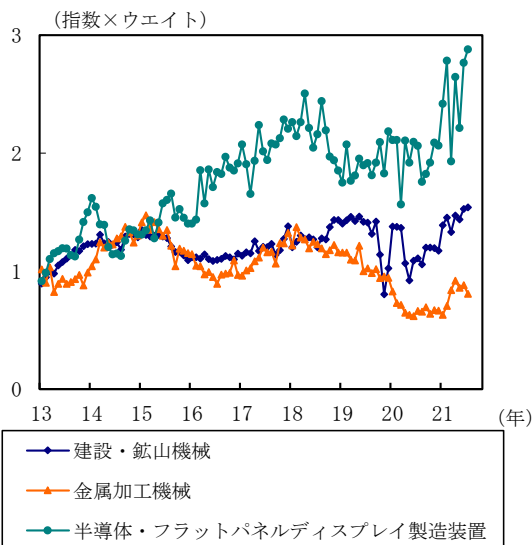
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

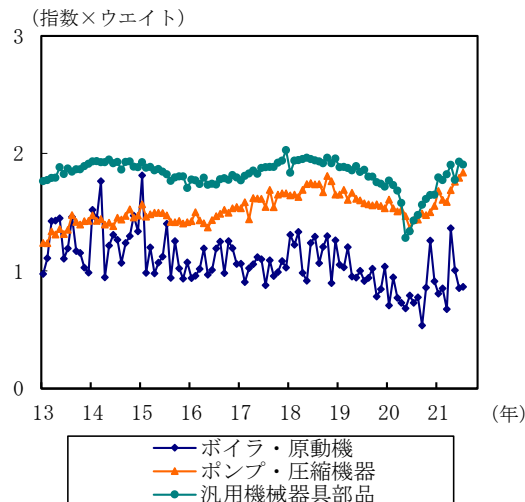
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

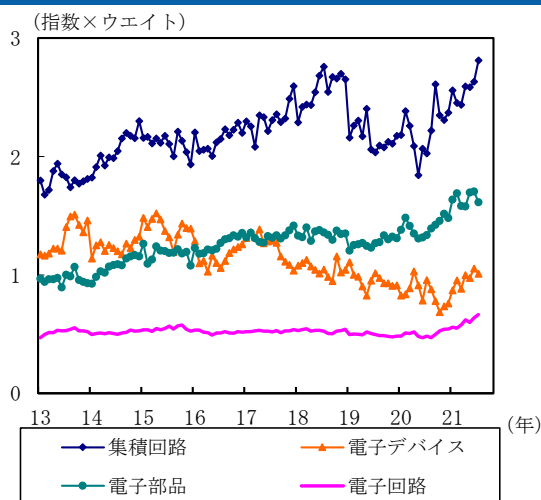
生産用機械



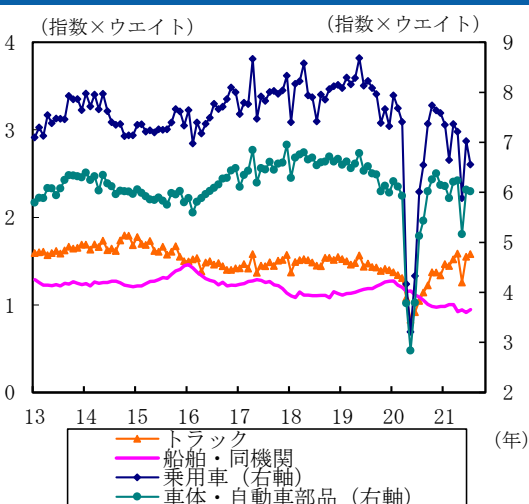
汎用・業務用機械



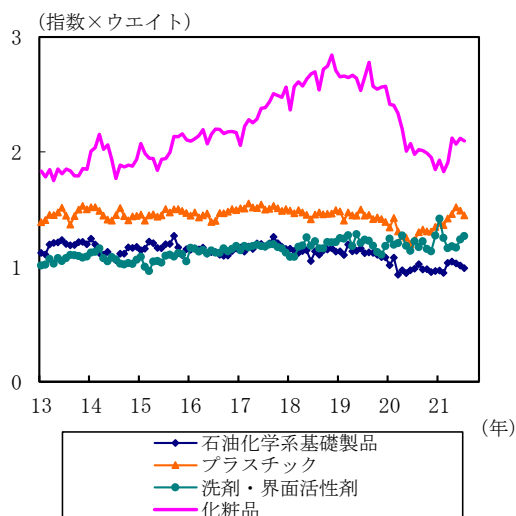
電子部品・デバイス



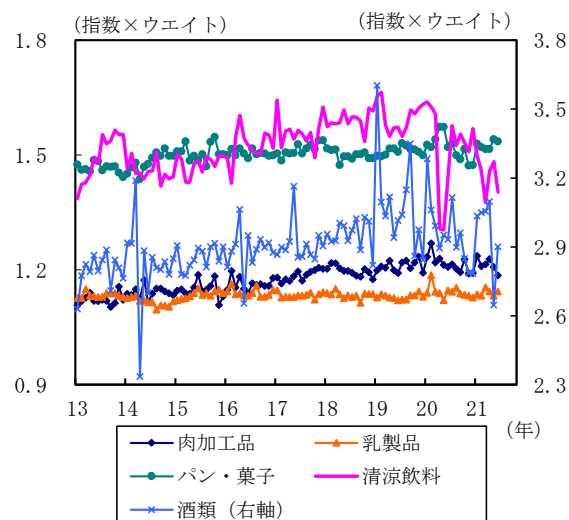
輸送機械



化学



食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成